

県議会 おおいた

No.
117

大分県議会
令和2年2月発行

題字は、大分県立大分南高等学校
3年 脇谷泉さんの作品です。



出前県議会「議員と語ろうイン東部地域（別府市）」

令和元年 第4回定例会

11月25日から12月11日までの会期
17日間で開催しました。

開会后、麻生議長による諸般の報告に続き、県立病院の新生児集中治療室の病床の増床にかかる経費等を盛り込んだ令和元年度大分県一般会計補正予算案などの議案が提出され、広瀬知事が提案理由を説明しました。

12月2日から3日間にわたり行われた一般質問には12人の議員が登壇し、ラグビーワールドカップ2019大分開催の成果とレガシーなどについて執行部と活発な議論を行いました。

また、各常任委員会を5日及び6日に開催し、付託された議案等について慎重な審査を行いました。

今定例会では、知事提出議案31件、議員提出議案5件について可決・認定し、請願1件を不採択、1件を継続審査とし、閉会しました。

会期中には、延べ275人の方々が本会議や委員会を傍聴されました。

目次

- ▼ 令和元年第4回定例会
▼ 委員会の活動状況
- ▼ 県議会10大ニュース
- ▼ 出前県議会
- ▼ トピックス・県議会今後の動き

109861

一般質問

12月2日(月)



自由民主党
古手川 正治 議員

◆ラグビーワールドカップ2019
大分開催の成果とレガシー
◆柑橘産地の復興
ほか

ラグビーワールドカップ2019
大分開催の成果とレガシー

問 現時点でどのような成果があったのか、また、大会のレガシーを将来につなげていくため、改めて知事の決意を伺う。

答 一つは、多くの県民が世界最高峰のプレーに触れ、心からラグビーを楽しんだことである。試合会場では17万3千人が観戦し、会場外でも多くの方がパブリックビューイングに興奮した。ラグビーの持つ品位、情熱、結束等の精神を直に味わえたことは、グローバルに活躍していく若い人々たちにも、大いに刺激となった。二つは、県民の皆さんがおもてなしや国際交流にチャレンジしたことである。ボランティアや地域の方々、飲食店、宿泊施設、交通事業者等、多くの皆さんが大活躍してくれた。こうした経験が一生に一度といわれる大会を自分たち

がやり遂げたという誇りにつながったと思う。

三つは、海外から6万人もの観戦客を迎え入れ、大分の様々な魅力を知ってもらえたことである。大会の成功を受け、来年7月の日本代表対イングランド代表戦が決まった。また、ロンドンの現地代理店から中高生のラグビー合宿の受入れを打診されるなど、確かな手応えを感じている。ラグビーワールドカップを誘致し、成功させた経験を、地方創生の取組にしっかりといかしていく。



公明党
河野 成司 議員

◆大分県再犯防止推進計画
◆動物愛護
ほか

大分県再犯防止推進計画

問 3月に策定された「大分県再犯防止推進計画」に基づき、今後どのような対策に取り組んでいくのか、知事の考えを伺う。

答 犯罪や非行を繰り返す人たちは、安定した仕事や住居

がない、高齢、障がいや依存症があるなど様々な問題を抱えている。こうした人々を円滑に社会復帰させるには、犯罪の責任を自覚するとともに被害者の心情を理解し、自ら社会復帰に向け努力することを地域全体で支援する取組が必要である。

このため、大分県再犯防止推進計画に基づき、今年7月に「大分県再犯防止推進協議会」を立ち上げ、効果的支援のためのネットワークを構築した。

矯正施設から出所後、自立した生活が難しい高齢者や障がい者等については、「大分県地域生活定着支援センター」がスムーズに福祉サービス等が利用できるよう、個別の事情に応じ支援をしている。

また、起訴猶予処分や執行猶予となった方への「人口支援」についても、同センターが行っており、関係機関と連携し、支援を必要とする方が安心して生活できるように引き続き取り組んでいく。

矯正施設出所後の薬物犯罪者については、保健所等で、専門医などが当事者や家族の相談に応じ、薬物依存からの脱却を支援している。

円滑な社会復帰への支援により、安全で安心な大分県の実現を目指す。



自由民主党
阿部 長夫 議員

◆地域医療の確保
◆ハウスマカンの振興
ほか

地域医療の確保

問 公立・公的病院を拠点として、今後の地域医療の確保について、知事の考えを伺う。

答 地域医療の確保を図るうえで、自治体病院や医師会立病院などの公立・公的病院は中心的な役割を担っている。

県では、医師確保のため、自治医科大学卒業医師や大分大学医学部の地域枠医師を派遣し、医療機能の充実を図ってきた。

今年度は、これらの病院に18名の医師を派遣しているが、令和11年度には約70名にまで増加する見込みであり、地域医療提供体制の充実が図られると考えている。

そうした中、厚生労働省が全国一律の基準による分析のみで、再編統合等の議論が必要として県内3病院の名前を突然公表し、県民の間に不安が広がったことは誠に遺憾である。このため、国は地方の意見を十分踏まえて進めることなどを全国知事会を通じて要請している。

現在、県では、公立・公的病院

のみならず民間病院や保険者代表も含めた関係者で構成する地域医療構想調整会議を開催し、地域の医療をどのように確保していくのか、公立・公的病院の役割などについて、地域の実情を踏まえた丁寧な議論を重ねている。

今後とも、関係者の合意と県民の納得を得ながら、誰もが、どこに住んでいても安心して医療を受けられるよう、地域医療の確保に努めていく。



県民クラブ
小嶋 秀行 議員

◆ 河川の氾濫対策

◆ 県立高等学校の定員

ほか

河川の氾濫対策

問 台風19号と新たに指定した「洪水浸水想定区域」を踏まえ、県管理河川の氾濫対策にどのように取り組むのか、知事の考えを伺う。

答 今年10月の台風19号は、短時間の大雨で河川の水位が急激に上昇し、越水、氾濫があった。さらにバックウォーター現象などもあり、広範囲にわたる浸水被害が発生した。

このような災害を防ぐには、まずは急激な水位上昇を抑え、河川

の氾濫を防ぐ抜本的な治水対策が重要である。

併せて、川幅を広げる河川改修や河床掘削等、河川の流量拡大も有効である。予算を大幅に増やし、集中的に取り組んでいる。

また、バックウォーター現象については、本県でも、大分川、筑後川などの大きな本川に合流する支川が多いことから、重要な課題と認識している。堤防補強などの緊急的な対策を進めるとともに、効果的な対策も検討していく。

また、住民の命を守るためのソフト対策も迅速に行わなければならない。5月までに公表済みの浸水想定区域を反映した洪水ハザードマップについて、市町に対し、経費の補助や技術的支援を行い早期作成を促している。

今後、ハード・ソフト両面からあらゆる施策を総動員し、「災害に強い強靱な県土づくり」にしっかりと取り組んでいく。

12月3日(火)



県民クラブ
木田 昇 議員

◆ 先端技術企業の誘致による地域活性化

◆ 大分県の新たな地方創生

先端技術企業の誘致による地域活性化

問 過疎地域や中山間地域における、先端技術企業の誘致による地域活性化策について、知事の見解を伺う。

答 情報関連技術の進展や、柔軟で多様な働き方を求める動きなどから、これまで誘致の進んでいなかった地域においても、IT関連企業の進出の可能性が高まっている。一昨年姫島村に進出したIT企業2社や、11月に佐伯市市目のサテライトオフィスに進出を表明した東京のIT企業など、進出する企業は積極的な地元雇用だけでなく、地域の振興に積極的に貢献する意欲を示しており、大変期待している。

他方、企業誘致は地域間競争でもあり、先端分野の企業を中山間地域等の条件不利地域に呼ぶことは簡単ではない。今後の企業誘致では、IT化の波はもちろん、5Gの実用化など、世の中の動きを踏まえた企業ニーズを的確に捉える必要がある。

本県では、高速道路の霧対策に係る県外企業との5Gを活用した実証実験など、先端分野における様々なプロジェクトを実施している。

県外企業やグローバル企業との連携を通じて、世の中のニーズや変化を把握するとともに、立地が進んでいない地域が持つポテンシャルと企業ニーズがどうマッチするのか探っていく。



自由民主党
清田 哲也 議員

◆ 発達障がい児への支援

◆ 県南地域の養殖業の振興

発達障がい児への支援

問 発達障がいの早期発見、早期支援の重要性が高まっていく中、医療、福祉、教育等の関係機関が相互に連携した切れ目のない支援について、知事の見解を伺う。

答 障がい児福祉計画により「成長段階に応じた切れ目のない支援体制の構築」を柱とし、次の三点に力を入れている。

一点目は、早期発見・早期支援である。乳幼児期に適切な支援につなぐため、市町村が行う5歳児健診等への専門医の派遣をはじめ、専門員や保育コーディネーターの養成等に取り組んできた。二点目は、切れ目のない支援のための基盤づくりである。これまで、専門療育等を行う児

童発達支援センターを県内6圏域に15か所整備したほか、発達障がい児が成長段階に応じて継続的に支援を受けられるよう、市町村、保育所、学校、医療機関等の連携強化を図っている。さらに、保護者と学校など関係機関相互の情報共有のため、本人の生育歴や支援内容等を記録した「相談支援ファイル」の一層の活用も進められている。

三点目は家庭への支援である。悩みや不安を抱える保護者に対して、同じ立場で傾聴するペアレントメンターの養成など、家族に寄り添った支援を強化している。加えて本年度から、「親なきあと相談員」の養成も始めた。発達障がいのある子どもとその家族が、特性に応じた支援を切れ目なく受け、地域で育ち、学べるよう一層力を注いでいく。



県民クラブ
尾島 保彦 議員

- ◆ 農業産出額
- ◆ 防災・減災対策

農業産出額

問 農業人口の減少や担い手不足等、多くの課題を抱える中で、農業産出額をどのようにし

て伸ばしていくのか、県の考えを伺う。

答 魅力ある農業の実現には、産出額を伸ばし、農家所得を向上させることが大変重要であり、構造改革を更に加速していく。一つは、生産基盤の強化である。高収益な園芸品目の生産拡大に向け、水田の畑地化や畑地の再編整備を進め、大規模な生産団地を育成する。

二つは、マーケットインの商品づくりである。マーケット起点の発想で「ベリーツ」などの生産拡大を進めるほか、食品企業と連携した産地づくりなどを支援する。また、流通対策も重要であり、国内流通では、今後物流拠点の機能をさらに強化していく。海外輸出では、相手国・品目・取引量の3つの拡大を基本に、売り込みを強化する。

三つは、こうした取組を支える担い手の確保・育成である。就農準備段階から経営開始までの一貫支援をテコに、新規就農者や参入企業を呼び込み、経営感覚と実践力を持つ経営体への成長を伴走型で後押しする。また、労働力不足が顕在化する中、生産性を維持・向上させるため、生産から加工・流通まで、スマート技術の実装を推進する。

産出額の反転増加に向け、市町村や農業団体などと知恵を出し合い、一丸となって取り組んで行く。



自由民主党
衛藤 博昭 議員

- ◆ 東九州新幹線
- ◆ 大分港大在コンテナターミナル

東九州新幹線

問 移動時間の短縮による観光客の県内滞在時間延長といった本県特有の期待できる効果等を積み上げ、国への働きかけを強めてもらいたい。東九州新幹線建設促進に向けた知事の思いを改めて伺う。

答 東九州新幹線は、本県の地力方創生を実現するために必要不可欠な交通インフラであり、早期実現に向けて国への働きかけや県民の機運醸成に取り組んでいる。

とりわけ将来を担う若い世代の方々にしっかりと議論していただくため、本年度は別府大学でシンポジウムを開催した。パネルディスカッションでは、「観光客の滞在時間が延び、より多くの観光地を巡ることが可能になる」、「ビジネス圏が拡大し、企業立地の追い

風になる」、「若者の地元就職や都市圏からの移住が進む」など、東九州新幹線に期待する意見が数多く出された。

平成27年度に実施した調査では、小倉―大分間で現在の特急より52分も短縮できると見込まれており、費用対効果は1.07という結果が出ている。

現在、国において、交流人口の増加に伴う税収の増加等を加味した新たな算出方法が検討されており、県としても、その結果やパネルディスカッションでの意見を踏まえ、九州地方知事会による要望活動などを通じて、国への働きかけを強めていく。

12月4日(水)



自由民主党
三浦 正臣 議員

- ◆ 坐来大分
- ◆ 大分トリニータを活用した地域活性化

坐来大分

問 坐来大分を中心とした、世界から選ばれる「大分」というブランド価値を打ち立てる取組について、知事の見解を伺う。

答 坐来大分は「食に情報をのせて」をコンセプトに、大

分の魅力を情報発信する拠点として設置した。食を通じておんせん県おおいたの魅力をアピールすることにより、大分ブランドの定着に著実な成果を上げている。今後は、さらなる飛躍を遂げるため、次の三つの観点で取組を充実させていく。

一つは、大分の観光や地域文化の情報発信である。郷土料理の試食会といったイベントや別府竹細工、七島イ細工等の製作を通じ、歴史や文化を体感するワークショップ等を引き続き実施する。

二つは、生産者や事業者に対する情報提供である。食材・加工品等の評価や首都圏の最新情報のフィードバックが、商品改良等にいかされている。

三つは、人材育成である。日田市出身の総料理長を筆頭に、料理スタッフ8名のうち4名が県出身者である。また、大分の語り部としての機能を充実させるため、スタッフの県内現地研修等も実施している。

今後とも、東京にいながら本県の誇る天然自然や伝統、文化を感じてもらえるよう、フラッグシップ機能を強化し、大分ブランドの確立を目指していく。



日本共産党
堤 つつみ

栄 三 議員

◆ 国民健康保険税
◆ 教員の変形労働時間制 ほか

国民健康保険税

問 国民健康保険税について、厚生労働省は、独自に公費

繰入れを行う市町村に対し、「保険者努力支援制度」により国が出す交付金を減らす措置を導入する方針と言われているが、公費繰入れは「自治体の判断でできる」という国の考え方に変わりはないのか、また、県として法定外繰入れを行い、国保税の全体的な引下げを行うべきと考えるが、見解を伺う。

答 保険者努力支援制度については、来年度から法定外繰入れなど一部の評価指標にマイナ

ス点が設定されることとなった。これについて国は、国保改革に伴って拡充された公費の配分について、一部メリハリを強化するものであるとしている。

この見直しは、法定外繰入れの早期解消を図るなどの目的で導入されるものであるが、法定外繰入れは自治体の判断によるという国の方針に変わりはないと認識している。

本県の法定外繰入れについては、国民健康保険は全国一律の制度であるため、国の責任において、被保険者の負担が過度にならないようにすべきだと考え、県として保険税の引下げを目的とした法定外繰入れを行うことは考えていない。



自由民主党
森 誠一 議員

誠一 議員

◆ STEAM教育
◆ JR豊肥本線の全線再開に向けた誘客対策 ほか

STEAM教育

問 「教育県大分」の創造に向け、STEAM教育の推進

に今後どのように取り組んでいくのか、知事の考えを伺う。

答 これからの教育には Society 5.0 に向け、各

教科での学習を実社会の課題解決にいかしていくための教科横断的な取組が求められている。何を知っているかではなく、知識を通じて何が出来るか、どう課題解決に役立てるかを創造的に考えさせることが大事である。

小・中学校では、新大分スタンダードによる授業改善が進んでおり、地図アプリを活用した観光

マップづくりや、プログラミング学習の先行実施など、観察力や論理的な思考力、検証する力の育成に取り組んでいる。

高等学校では、グローバルリーダー育成塾に集う生徒たちがSDGsをテーマに熱心に議論を重ねている。

さらに、「学びのSTEAM化」を進め、ICT人材を養成するため、モデルとなる高等学校を育てていきたい。IT企業との連携・交流やAI等を活用して子どもが見守りを行うシステム等、自らのアイデアをどう製品化するかといった、課題解決型学習を充実させ、地域産業が求めるICT人材の育成につなげていく。

これからの社会を創造的に変えていく人材を大分からも輩出できるように、STEAM教育の推進に力をいれていく。

※STEAM教育: Science (科学)、Technology (技術)、Engineering (工学)、Arts (芸術)、Mathematics (数学) 等の各教科での学習を、実社会での問題発見やその解決に活かしていくための教科横断的な教育。



県民クラブ
守 永 信 幸 議員

◆駅の無人化とスマートサポートステーションの導入
◆アスリートのセカンドキャリアの支援と移住施策 ほか

駅の無人化とスマートサポートステーションの導入

問 利用者の安全・安心を確保するために、駅の無人化とスマートサポートステーション（SSS）の導入に関して、県としてどのような問題意識を持ち、対応していくつもりであるのか、考えを伺う。

答 県内の鉄道路線は、通勤・通学等の日常生活や観光等の経済活動において重要な役割を果たしている。

他方、急速な人口減少や他の交通機関との競合等により利用者が減少し、路線の維持・充実を図ることが難しくなっている。SSSの導入を含めた無人化は、鉄道事業が厳しくなる中で路線維持を行うための経営努力の一環であると受け止めている。

しかし、公共交通機関としての役割を担う以上、JR九州は安全性、利便性に対する県民ニーズを十分に踏まえるべきであり、SSS

の導入に当たっても、慎重な検討と住民への丁寧な説明を大分市とも連携して再三にわたり求めてきた。この結果、住民説明会の開催やバリアプリ未整備駅での導入計画の見直しにつながったと考えている。導入後も、利用者の声を踏まえて必要な改善を行うよう要望してきた。今後も、安全性等の向上のため、JR九州には県民の声をしっかりと伝えていく。

可決された議案（議員提出）

●意見書（5件）

▽地域医療を守る公立・公的病院の維持・存続のための支援の拡充を求める意見書 ほか

可決・認定された議案（知事提出）

●予算関係（2件）

▽令和元年度大分県一般会計補正予算（第3号） ほか

●条例関係（11件）

▽大分県特殊詐欺等被害防止条例の制定について

▽大分県安全・安心まちづくり条例の一部改正について ほか

●決算関係（15件）

▽平成30年度大分県病院事業会計決算の認定について ほか

●その他（3件）

▽当せん金付証券の発売について ほか

委員会の活動状況

議会運営委員会

●県外所管事務調査

1月21日から23日にかけて、本県の議会運営の参考とするため、岡山県議会及び鳥取県議会を訪問しました。

岡山県議会では、議会改革の取組事例の一つである高校生議会の開催状況や課題、本会議における質問人員の配分や常任委員会の開催、予算総括協議会の運営状況などについて、鳥取県議会では、議会改革推進会議におけるこれまでの取組や現在の検討状況、本会議における質問人員の取扱い、決算審査特別委員会の運営状況等について調査を行いました。



岡山県議会

委員会の活動状況

決算特別委員会

●7月に委員会を設置し、以下の日程で審査を実施しました。

- 10月10日～17日〔公営企業会計・一般会計・特別会計〕
 - ・企業局・病院局・会計管理者決算説明及び監査委員決算審査説明並びに審査
 - ・各部局別の決算説明及び審査
- 11月6日 決算審査報告の内容検討
- 11月11日 採決及び審査報告書の検討・まとめ

●決算議案15件については、原案どおり可決及び認定すべきものと決定し、検討または改善等を求める事項を取りまとめるうえ、12月2日の本会議において委員長が報告しました。

常任委員会

委員会の活動状況

総務企画委員会

●委員会の開催状況

12月6日に委員会を開催。付託を受けた議案8件について審査を行いました。

(付託を受けた議案)

- ・令和元年度大分県一般会計補正予算（第3号）
- ・当せん金付証票の発売について
- ・大分県税条例の一部改正について
- ・大分県産業廃棄物税条例の一部改正について ほか

福祉保健生活環境委員会

●委員会の開催状況

12月6日に委員会を開催。「性的少数者の現状及び支援施策」、「多様な人とであい・つながる～『共生社会』の実現をめざして～」について参考人から意見を聴取した後、付託を受けた議案5件、請願2件について審査を行いました。

(付託を受けた議案等)

- ・大分県特殊詐欺等被害防止条例の制定について ほか

商工観光労働企業委員会

●委員会の開催状況

12月6日に委員会を開催。ラグビーワールドカップ2019大分開催における観光客の動向等について、執行部から報告を受けました。

農林水産委員会

●委員会の開催状況

12月5日に委員会を開催。付託を受けた議案1件について審査を行いました。

(付託を受けた議案)

- ・大分県卸売市場条例等の廃止について

土木建築委員会

●委員会の開催状況

12月5日に委員会を開催。付託を受けた議案2件について審査を行いました。

(付託を受けた議案)

- ・令和元年度大分県一般会計補正予算（第3号） ほか

●県内所管事務調査

11月24日に実施しました。本体が完成した大分川ダムや新しく開設された道の駅のつはるを調査しました。

文教警察委員会

●委員会の開催状況

12月5日に委員会を開催。付託を受けた議案2件について審査を行いました。

(付託を受けた議案)

- ・警察署の名称、位置及び管轄区域条例等の一部改正について
- ・物品の取得について

県議会を傍聴しませんか？

▶本会議場で

本会議や委員会の傍聴をご希望の方は、日程を確認のうえ、会議当日、議会棟1階の傍聴受付までお越しください。先着順で傍聴券を交付します。

本会議場での傍聴については、盲導犬等の同伴ができます。

手話通訳又は要約筆記を希望される方は本会議の前日までに、赤外線補聴装置やシルエットインダクター（磁気誘導ループ）の貸出しを希望される方は当日受付でお申し出ください。

傍聴席数は、本会議が一般席147席、車いす使用者席4席、委員会が各委員会室10席です。

【お問い合わせ】議会事務局議事課 TEL 097-506-5022

▶ホームページで

県議会ホームページで本会議の生中継・録画中継がご覧になれます。

<http://www.oita-pref.stream.jfit.co.jp/>

▶ケーブルテレビで

次のケーブルテレビ局で本会議中継を行っています。放送時間は各局にご確認ください。

- ・大分ケーブルテレコム・大分ケーブルネットワーク・CTBメディア・KCVコミュニケーションズ

詳しくはこちらから／



本会議場を見学できます

定例会会期中を除く平日は、本会議場の見学が可能です。

希望される方は、事前に下記の連絡先へお問い合わせください。

【お問い合わせ】議会事務局政策調査課 TEL 097-506-5035



令和元年(2019年)県議会10大ニュース

12月9日、麻生栄作議長、土居昌弘副議長から、令和元年(2019年)大分県議会10大ニュースが発表されました。



1 ラグビーワールドカップ2019日本大会大分開催の盛り上げりに貢献

ラグビージャーナリストの村上晃一氏を招き、講演会を議場で開催。第3回定例会では議場に大会旗を掲示し、県立芸術文化短期大学の学生が大会公式ソングや来県チーム国ゆかりの楽曲を演奏し、大分開催を盛り上げた。



2 県立武道スポーツセンターの完成と「第10回大分県武道祭」の開催

武道教育の推進等のため、県民と議会が一体となって建設を求めてきた県立武道スポーツセンターが大分スポーツ公園内に完成。こけら落としとして「第10回大分県武道祭」を大分県武道協会と武道教育推進議員連盟が連携して開催した。



3 新人9人を迎え、新体制の議会が始動

第19回統一地方選挙で新人9人を含む43人の議員が誕生。5月15日の臨時会で、「県議会の取組に見える化し、県民と一体となった主体的・能動的な仕組みによる身近な県議会づくり」などを掲げ、麻生栄作議員が第73代議長に、土居昌弘議員が第99代副議長に就任した。



4 おおいた動物愛護センターの開所にあわせ、犬猫の適正な飼養に向けた政策を提言

全国的に高い水準にある本県の犬猫の殺処分頭数減少対策として、野良猫等の対策や譲渡率向上のための新たな取組など政策提言を行った。



5 東九州地域における陸上交通の高速化促進を要望

東九州自動車道の暫定2車線区間における4車線化の早期実現と、東九州新幹線の整備を求め、大分、福岡、宮崎、鹿児島県の4県議会議長が国に提言書を提出した。



6 天皇陛下御在位三十年に際し賀詞を奉呈、即位礼正殿の儀にあわせ賀詞を奉呈

いずれも全会一致で決定し、大分県議会として祝意を表するため、天皇陛下に賀詞を奉呈。



7 中九州横断道路「大野竹田道路」の開通に伴い、大分・熊本・宮崎の3県で交通基盤の更なる整備等について要望を整理

1月19日の開通にあわせ、「九州中央3県議員連盟」の総会を竹田市で開催。高速道路網の整備状況等について、現状と課題を確認した。



8 県内大学・短大生との意見交換会「おんせん県議会若者DAY」を開催

初めての試みとして、時勢にあわせたテーマを設定。「若者の県内就職の促進」、「女性の活躍推進」について、26名の学生と議員が意見交換を行った。



9 議員出前講座を姫島村で初めて実施

議員が講師となり、県議会の仕組みや役割について姫島中学校で説明。姫島ITアイランド構想や、10月から11月にかけて開催された「第10回日本ジオパーク全国大会2019おおいた大会」についてなど、地域に密着した話題について生徒と意見を交換した。



10 九州各県議会議長会の臨時会を日田市で開催

九州経済フォーラムにあわせ九州各県議会議長会を日田市で開催。九州地域連携の推進に向け一丸となって取り組むべき課題を共有した。



出前県議会「議員と語ろうイン東部地域」の開催

議員が県内各地に出向き、地域の現状や課題・取組について意見交換を行い、県民の声を県政に反映させることを目的に実施しています。今年度は、1月27日に別府市で開催しました。

テーマ 観光都市別府のまちづくり・振興について

日本一の湧出量と源泉数を誇り、毎年多くの観光客が訪れる別府市でまちづくりや地域おこしに取り組んでいる5名の方をお招きしました。当日は麻生議長、土居副議長、広報委員、地元県議など19名の議員が出席し、温泉や地元の歴史文化をいかす地域おこしや、子どもたちの郷土愛育成などについてお話を伺い、活発に意見を交わしました。

亀川さんもく会会長
山則 正幸 さん



【亀川地域の活性化・さんもく会の挑戦】

亀川地域の活性化を目的に1985年に結成された「亀川さんもく会」の活動と子どもたちによるイベントをサポートする新たな挑戦についてお話をいただきました。

緑丘校区青少年育成協議会事務局長
津國 芳清 さん



【「どんど焼き」と子どもたちの郷土愛育成】

伝統的な行事を体験することによって、子どもたちの地域を愛する心を育むことを目的に、緑丘校区で毎年開催されている「どんど焼き」についてお話をいただきました。

フリーパーソナリティー
荒金 由希子 さん



【別府の今とこれから】

留学生を含む大学生や起業家など、別府市在住の様々な若者へのインタビューをもとに、別府の魅力やこれからの展望についてお話をいただきました。

SIC合同会社代表社員
杉本 孝生 さん



【Social Satellite Office 構想～別府のまちづくりをJOB(仕事)から変える～】

別府に住む留学生や障がい者、高齢者の方々が活躍でき、成長できる地域を目指して、空校舎を活用した企業誘致、障がい者雇用等の構想についてお話をいただきました。

NPO法人別府八湯温泉道名人会理事長
佐藤 正敏 さん



【別府八湯温泉道名人会の役割】

地域の共同温泉を守り伝えていく取組や、別府のファンを増やし移住につなげる取組など、別府市を温泉で盛り上げるための活動についてお話をいただきました。



トピックス

《県民意見募集》

県議会では、現在、「豊かな人生を送るために『人生会議』の普及啓発を推進する条例（仮称）」の制定に向けて検討を行っています。

県民の皆様のご意見を参考としながら条例づくりを進めるため、条例案に対する意見の募集を行います。

【意見等の募集期限】

令和2年3月2日（月）

【応募方法】

住所、氏名、電話番号を明記の上、左記の宛先までお寄せください。

〈郵 送〉

〒870-0022

大分市大手町3丁目1-1

大分県議会事務局 政策調査課

〈FAX〉 097-506-1785

〈メール〉 a21000@pref.oita.lg.jp

※詳しくは県議会ホームページをご覧ください。

★人生会議とは

本人が希望する医療やケアなどを受けるために大切にしていることや望んでいること、どこでどのような医療やケアを望むかなどについて、自分自身で前もって考え、家族や友人など周囲の信頼する人たちと何度も話し合い、しっかりと共有する取組のことをいいます。

《第9回大分県議会政策勉強会》

第4回定例会開会日の11月25日、株式会社野村総合研究所上級コンサルタントの武田佳奈氏を講師に招いて「地方創生とフルキャリア活躍支援」と題し、ご講演をいただきました。

暮らしや子育てにも、仕事やキャリアにも、意欲的に取り組みたいと考える「フルキャリア」が増えている状況を踏まえ、地域にフルキャリアのまま活躍できる環境が整備できれば、仕事と子育ての両方に挑戦しようとする女性が増えるのではないかとの提言がありました。

人口減少が深刻な本県では、特に若者や女性の活躍が不可欠であり、地方創生を進めていく上で大変参考となる勉強会となりました。



《「飲んだらのれん」

飲酒運転撲滅啓発イベント》

12月15日、飲酒運転根絶フェアが大分市の祝祭の広場で開催されました。式典終了後、14名の県議

会議員が交通安全チラシの配布など街頭啓発活動を行いました。「大分県飲酒運転根絶に関する条例」（通称「飲んだらのれん条例」）は、平成19年7月に議員提案により制定されています。



《県議会今後の動き》

令和2年第1回定例会の日程（予定）	2月25日（火）開会
	28日（金）本会議
	3月4日（水）本会議・常任委員会
	5日（木）6日（金）本会議（代表質問）
	9日（月）11日（水）本会議（一般質問）
	12日（木）18日（水）予算特別委員会
	19日（木）23日（月）常任委員会
	25日（水）予算特別委員会
	27日（金）閉会

県議会ホームページでは

本会議の生中継、録画中継、会議録や議会の日程、質問項目、議会の仕組みと役割など、様々な情報を掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

<https://www.pref.oita.jp/site/gikai/>

大分県議会

検索

お問い合わせは県議会事務局まで

【総務課】

議会庶務、情報公開など TEL 097-506-5019

【議事課】

本会議、常任委員会、傍聴など TEL 097-506-5022

【政策調査課】

調査業務、議会広報など TEL 097-506-5035



点字版・音読版「県議会おおいた」のご案内

本紙の点字版・音読版を作成・配付しています。詳しくは議会事務局政策調査課まで。

広報誌「県議会おおいた」は、大分県情報センター、地区情報コーナー（各振興局）、県内各市役所、町村役場、大分銀行県内各支店などに配布しておりますので、ご利用ください。